

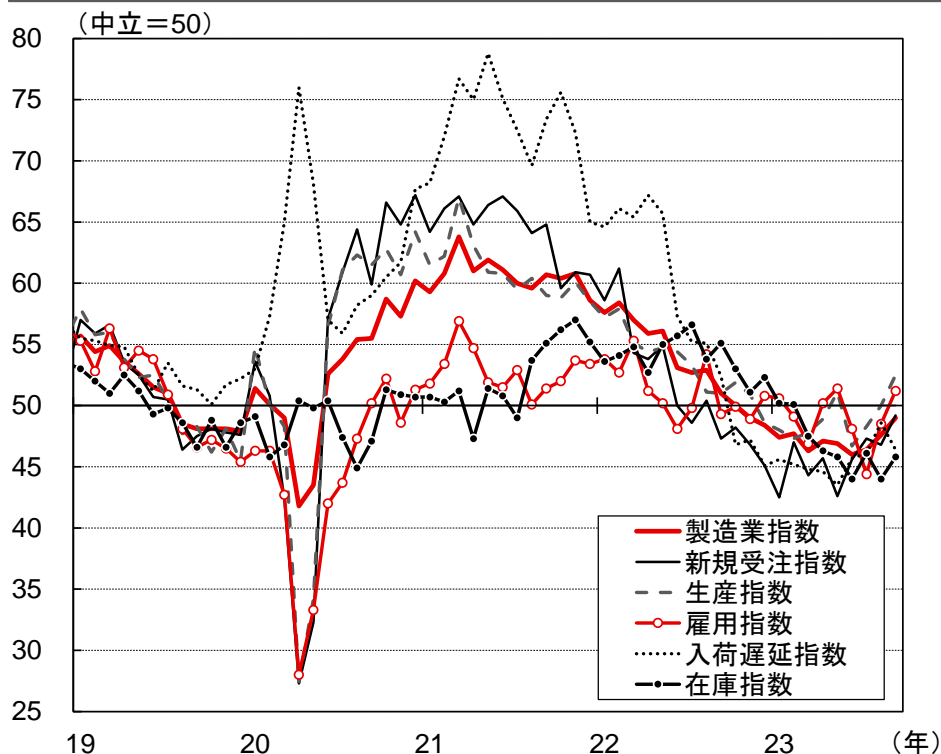
米国経済・金融概況 (2023年10月)

2023年10月19日
経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. 企業活動

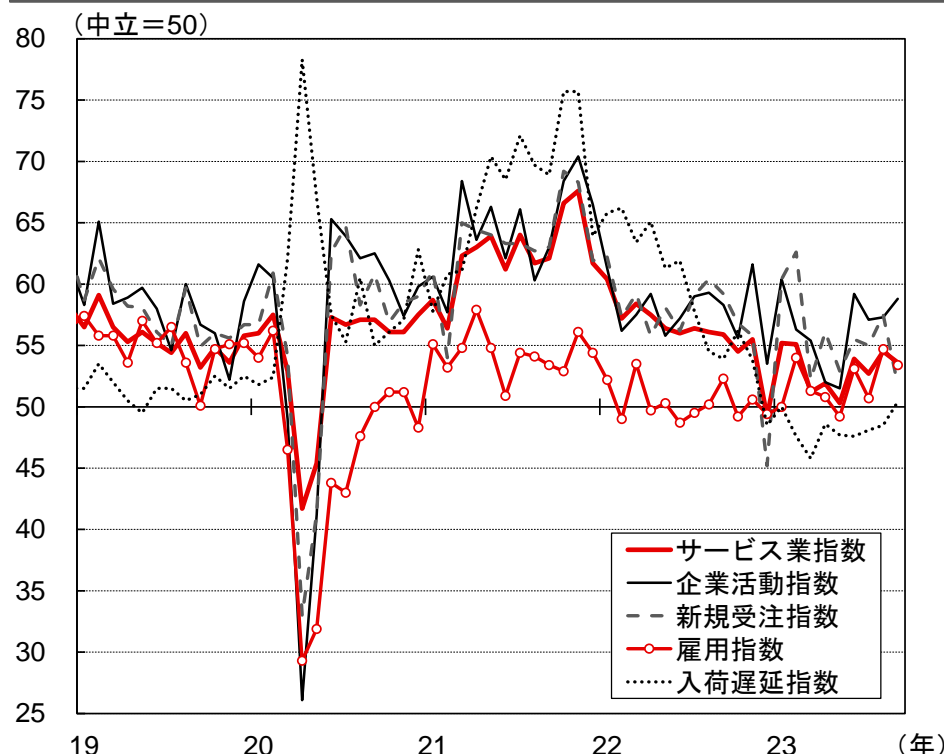
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、9月に49.0(前月比+1.4ポイント)と3ヵ月連続で上昇。指数の構成項目をみると、先行指標の新規受注指数(49.2、同+2.4ポイント)に加え、雇用指数(51.2、同+2.7ポイント)、生産指数(52.5、同+2.5ポイント)、在庫指数(45.8、同+1.8ポイント)が幅広く上昇。回答企業からは、生産は前月から改善しており、雇用は主に自然減及び採用減を通じて人員数を管理しているとの指摘がみられた。産業別では全18産業のうち5産業が拡大、11産業が縮小、2産業が横這いを報告(8月は5産業が拡大、13産業が縮小)。
- 9月のISMサービス業指数(総合指数)は53.6(前月比▲0.9ポイント)と2ヵ月ぶりに低下。入荷遅延指数(50.4、同+1.9ポイント)、企業活動指数(58.8、同+1.5ポイント)は上昇した一方、新規受注指数(51.8、同▲5.7ポイント)、雇用指数(53.4、同▲1.3ポイント)は低下。ISMは、回答企業の多くは業況を引き続き前向きに評価している一方、先行きへの懸念も幾分みられると指摘。産業別では全18産業のうち13産業が拡大、5産業が縮小(8月も13産業が拡大、5産業が縮小)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

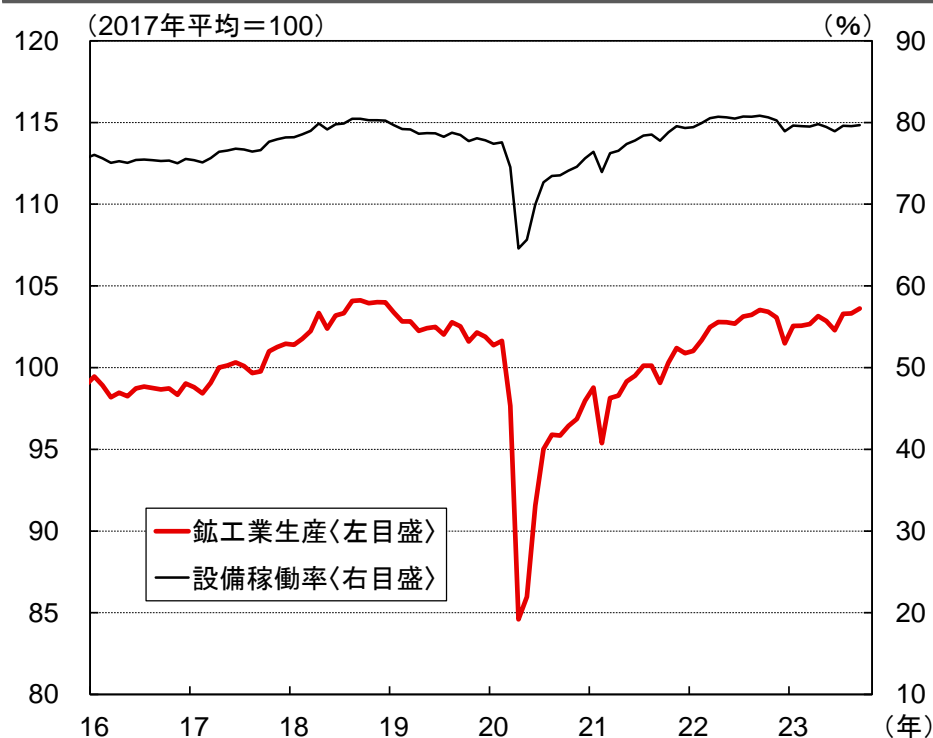


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 生産

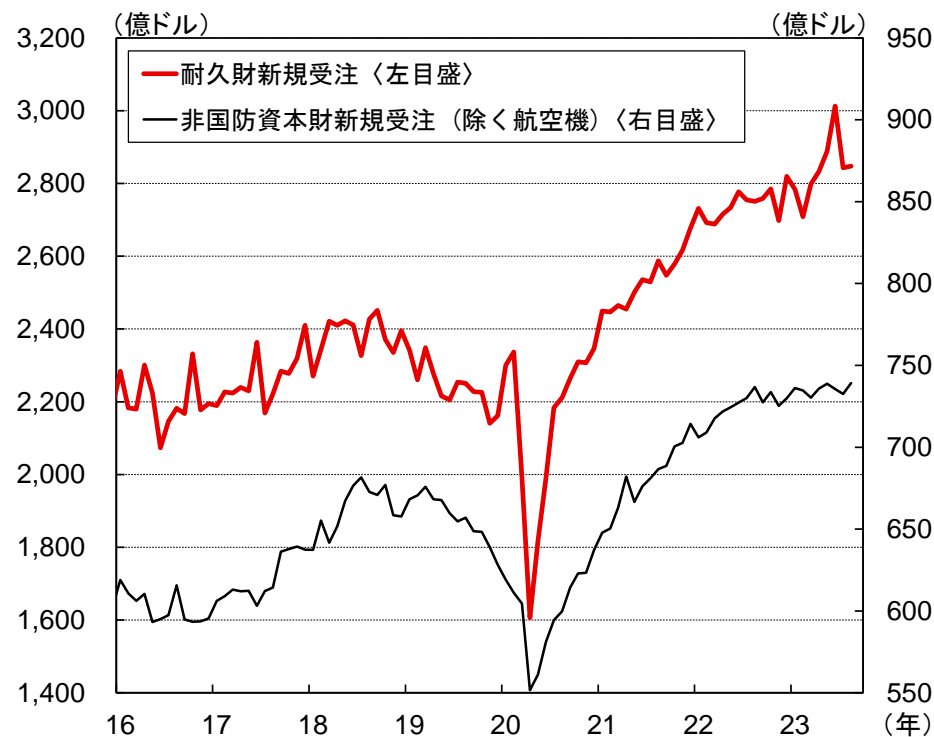
- 9月の鉱工業生産は前月比+0.3%と3ヵ月連続で増加。産業別にみると、全体の約7割を占める「製造業」が同+0.4%と2ヵ月ぶりに増加、「鉱業」は同+0.4%と4ヵ月連続で増加した一方、「公益事業(電力・ガス)」は同▲0.3%と3ヵ月ぶりに減少。「製造業」のうち「自動車・同部品」は同+0.3%と増加も、UAW(全米自動車労組)のストライキの影響で下押しされたと統計元のFRBは指摘。9月の設備稼働率は79.7%と、前月から0.2%ポイント上昇。
- 8月の耐久財受注は前月比+0.1%と2ヵ月ぶりに小幅増加。内訳をみると、「電機・家電」(同+1.0%)、「機械」(同+0.6%)、「コンピュータ・電子製品」(同+0.3%)が増加した一方、「一次金属」(同▲1.0%)、「輸送用機器」(同▲0.3%)が減少。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同+0.9%と3ヵ月ぶりに増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料)FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

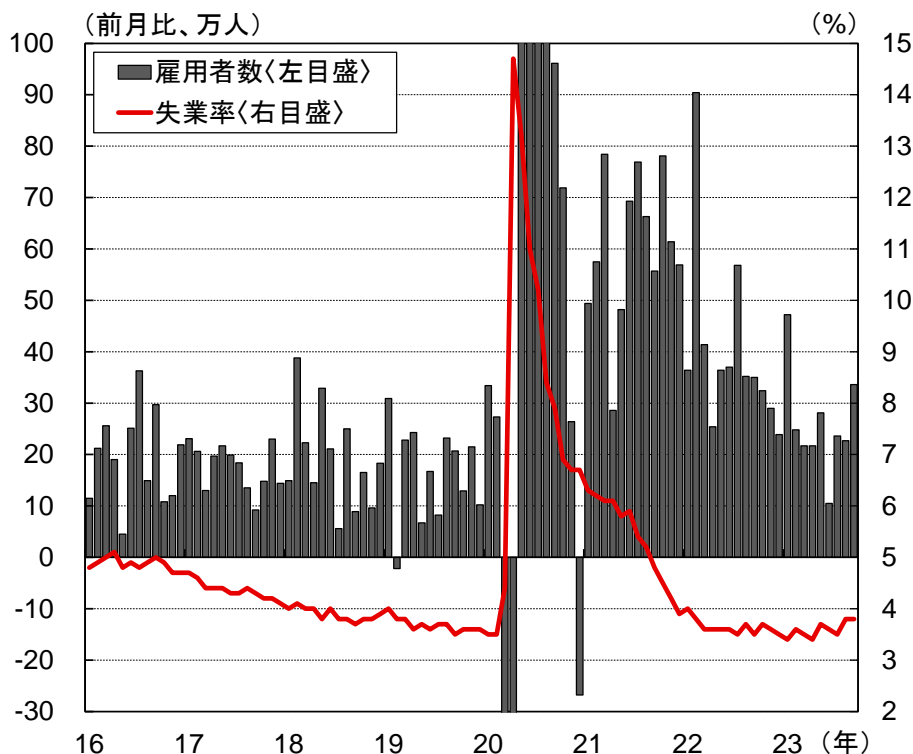


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 雇用

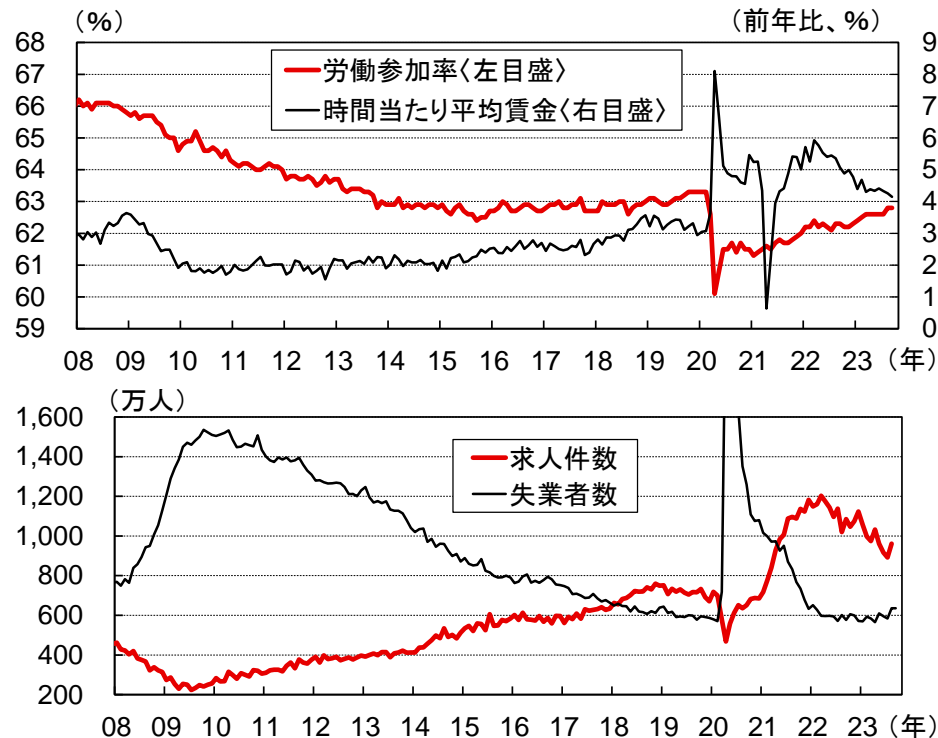
- 9月の非農業部門雇用者数は前月比+33.6万人と、市場予想(Bloomberg集計:同+17.0万人)を大幅に上回る増加幅。7月(同+15.7万人→同+23.6万人)、8月(同+18.7万人→同+22.7万人)も上方改定。業種別にみると、9月は「レジャー・接客」(同+9.6万人)、「公務」(同+7.3万人)、「教育・医療」(同+7.0万人)、「専門・ビジネスサービス」(同+2.1万人)、「小売業」(同+2.0万人)、「製造業」(同+1.7万人)等、幅広い業種が増加。
- 9月の失業率は3.8%、労働参加率は62.8%とともに前月から横這い。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+4.2%(8月:同+4.3%)と伸びが鈍化。
- 8月の求人件数は961.0万件(前月比+69.0万件)と4ヵ月ぶりに増加。求人件数は失業者数の約1.5倍と依然として高水準にあるものの、労働需給の逼迫感は緩和しつつある。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

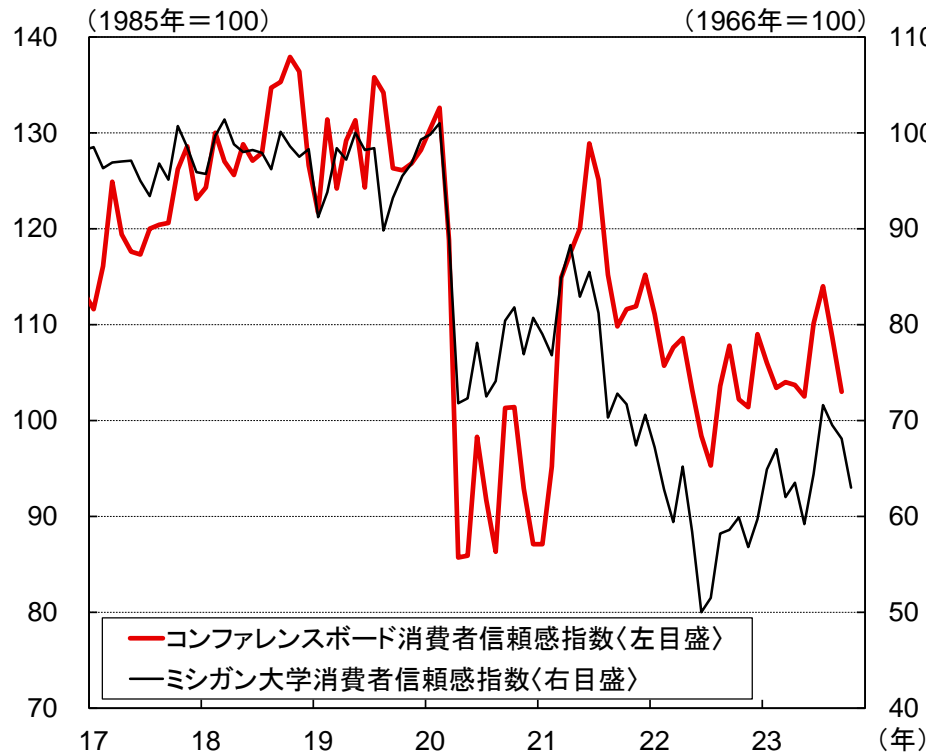


(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 個人消費

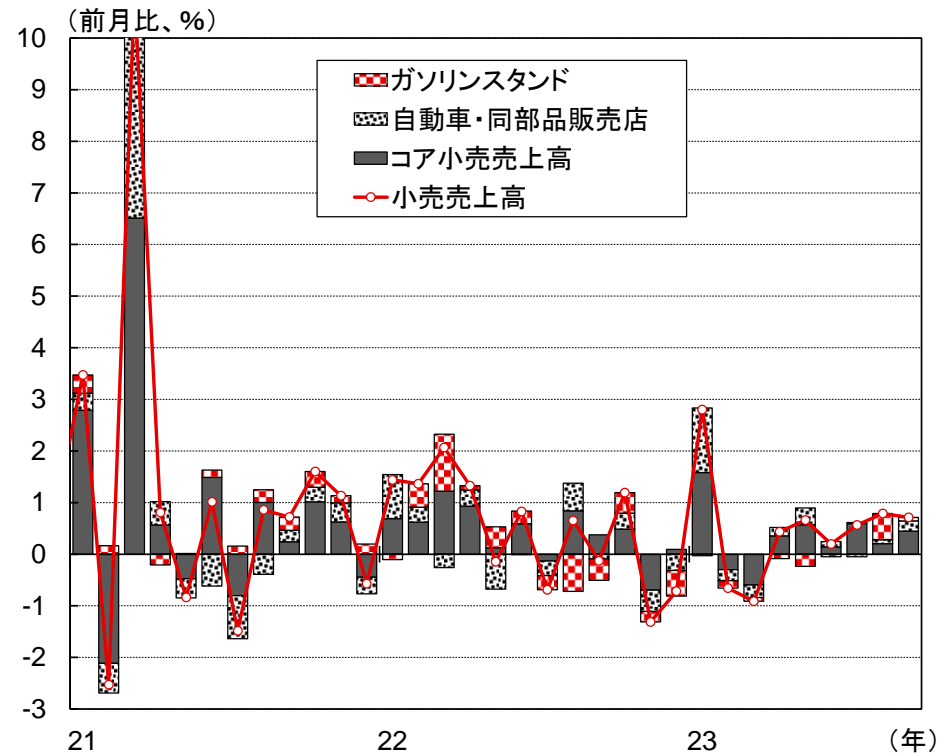
- 9月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は103.0(前月比▲5.7ポイント)と2カ月連続で低下。また、10月のミシガン大学消費者信頼感指数は63.0(同▲5.1ポイント)と3カ月連続で低下。エネルギー価格上昇や政府閉鎖リスク及び下院議長解任等の政局混迷により消費者マインドが悪化。1年先の期待インフレ率は3.8%(9月:3.2%)と大幅に上昇。
- 9月の小売売上高は前月比+0.7%と6カ月連続で増加(8月:同+0.8%、改定値)。業種別にみると、「無店舗小売」(同+1.1%)、「自動車・部品販売店」(同+1.0%)、「ガソリンスタンド」(同+0.9%)、「飲食店」(同+0.9%)、「食料品・飲料品店」(同+0.4%)等が増加した一方、「衣服販売店」(同▲0.8%)、「電機・家電販売店」(同▲0.8%)等は減少。「自動車・部品販売店」と「ガソリンスタンド」を除くコア小売売上高は同+0.6%(8月:同+0.3%、改定値)。

消費者信頼感指数の推移



(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

小売売上高の推移

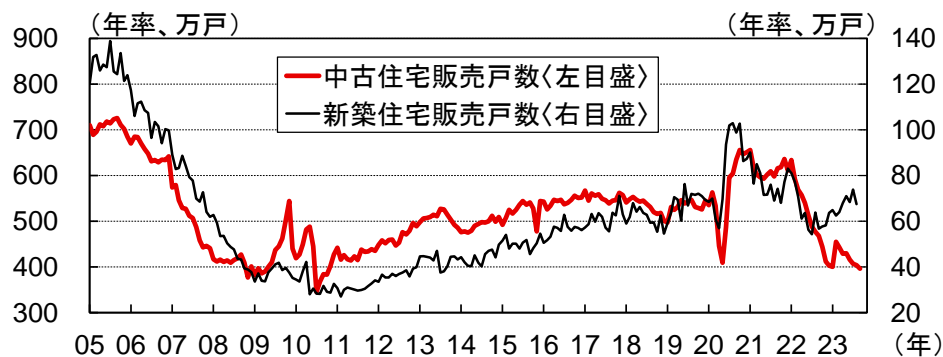
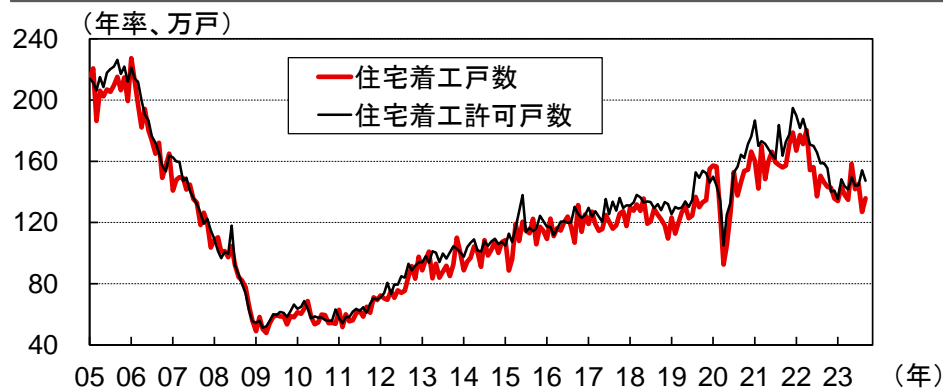


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 住宅

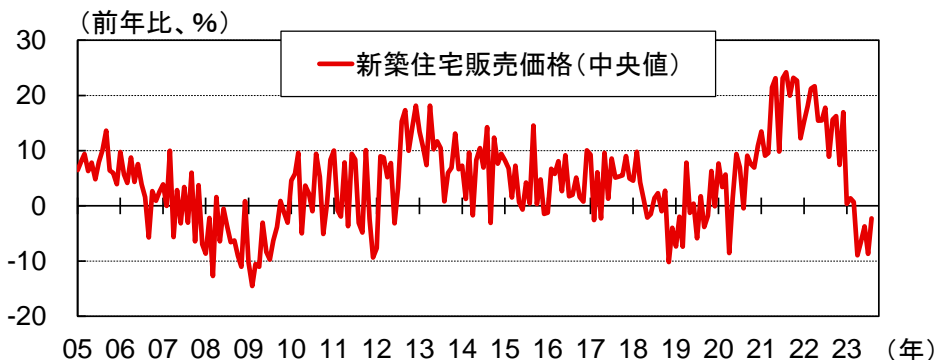
- 9月の住宅着工戸数は前月比+7.0%の年率135.8万戸(季節調整済)と2カ月ぶりに増加。内訳をみると、一戸建住宅は同+3.2%、変動の大きい集合住宅(2世帯以上)は同+17.6%とそれぞれ増加。先行指標である住宅着工許可戸数は同▲4.4%の年率147.3万戸(季節調整済)と3カ月ぶりに減少。
- 住宅販売戸数は、9月の中古住宅が前月比▲2.0%の年率396万戸(季節調整済)と4カ月連続で減少し、2010年10月以来の低水準。8月の新築住宅は同▲8.7%の年率67.5万戸(季節調整済)と2カ月ぶりに減少。
- 住宅販売価格は、9月の中古住宅が394,300ドル(中央値)、前年比+2.8%(8月:同+3.2%)と3カ月連続で上昇。8月の新築住宅は430,300ドル(中央値)、同▲2.3%と5カ月連続で下落も、下落幅は前月(7月:同▲8.7%)から縮小。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 物価

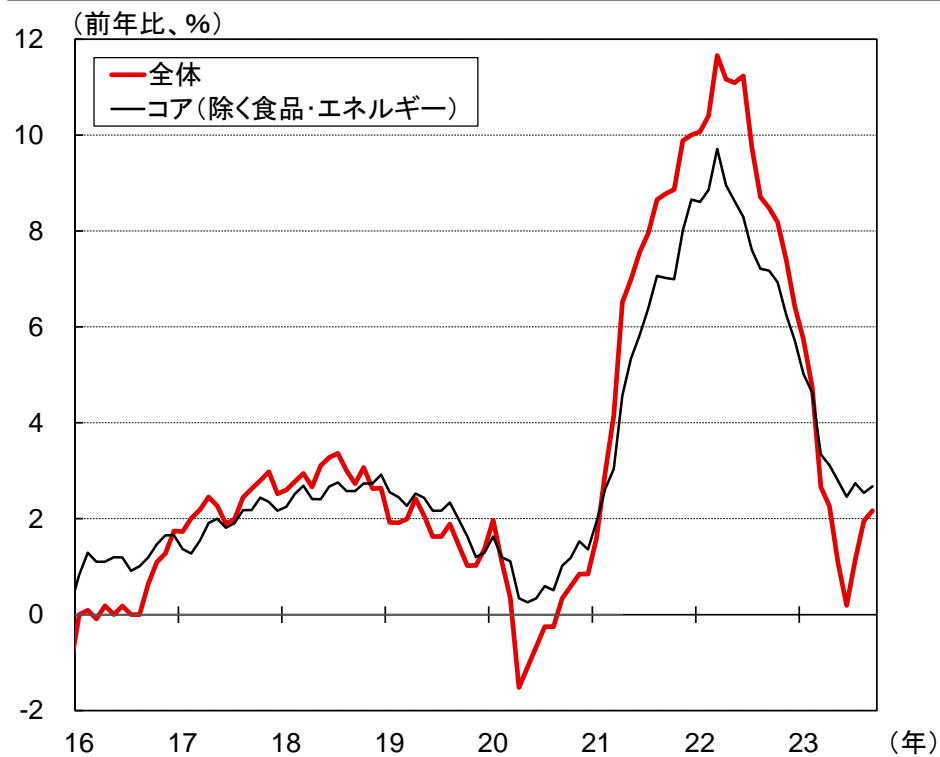
- 9月の消費者物価指数は前年比+3.7%(8月:同+3.7%)と、伸びは前月から横這い。一方、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+4.1%(8月:同+4.3%)と6ヵ月連続で伸びが鈍化。ウェイトの大きい「中古車」(8月:同▲6.6%→9月:同▲8.0%)の下落幅拡大等により「コア財」(同+0.2%→同+0.0%)が横這いとなり、「コアサービス」(同+5.9%→同+5.7%)の伸びも鈍化。
- 9月の生産者物価指数は前年比+2.2%(8月:同+2.0%)と3ヵ月連続で伸びが加速。内訳をみると、「財」は同+0.8%(8月:同+0.5%)、「サービス」は同+2.9%(8月:同+2.7%)と、ともに伸びが加速。食品とエネルギーを除いたコア指数は同+2.7%(8月:同+2.5%)と2ヵ月ぶりに伸びが加速。

消費者物価指数の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移

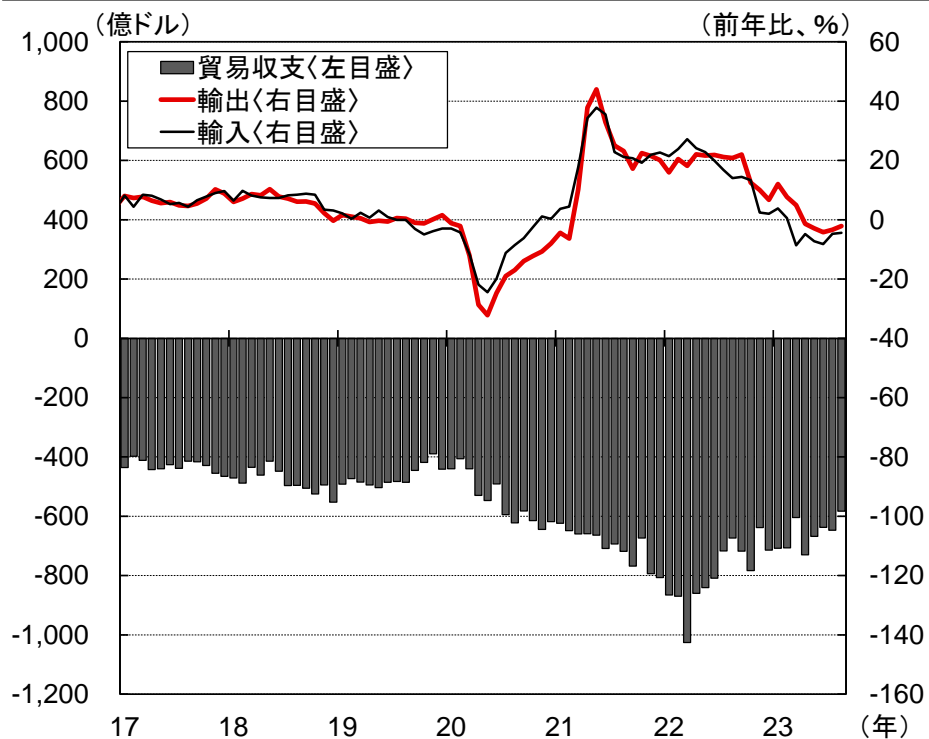


(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 国際収支

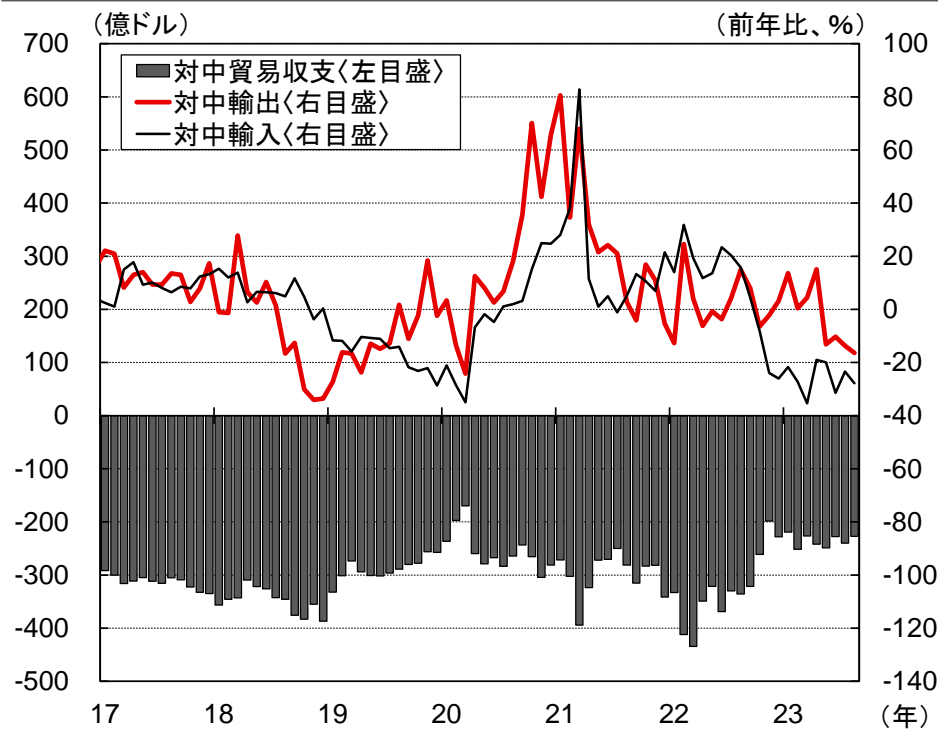
- 8月の貿易収支(財・サービス)は583億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲9.9%(同▲64億ドル)と縮小。輸出は同+1.6%と2ヵ月連続で増加、輸入は同▲0.7%と2ヵ月ぶりに減少。前年比でみると輸出は▲2.1%と5ヵ月連続で減少、輸入は▲4.4%と6ヵ月連続で減少。
- 財の貿易収支を国・地域別にみると、米国の貿易赤字(財)の3分の1程度を占める中国との貿易赤字は8月に227億ドルとなり、赤字幅は前月比▲5.2%(同▲13億ドル)と縮小。対中輸出(財)は同▲1.5%、対中輸入(財)は同▲4.1%と、ともに2ヵ月ぶりに減少。前年比でみると、対中輸出(財)は▲16.4%と4ヵ月連続で減少、対中輸入(財)は▲27.8%と11ヵ月連続で減少。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注)国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移

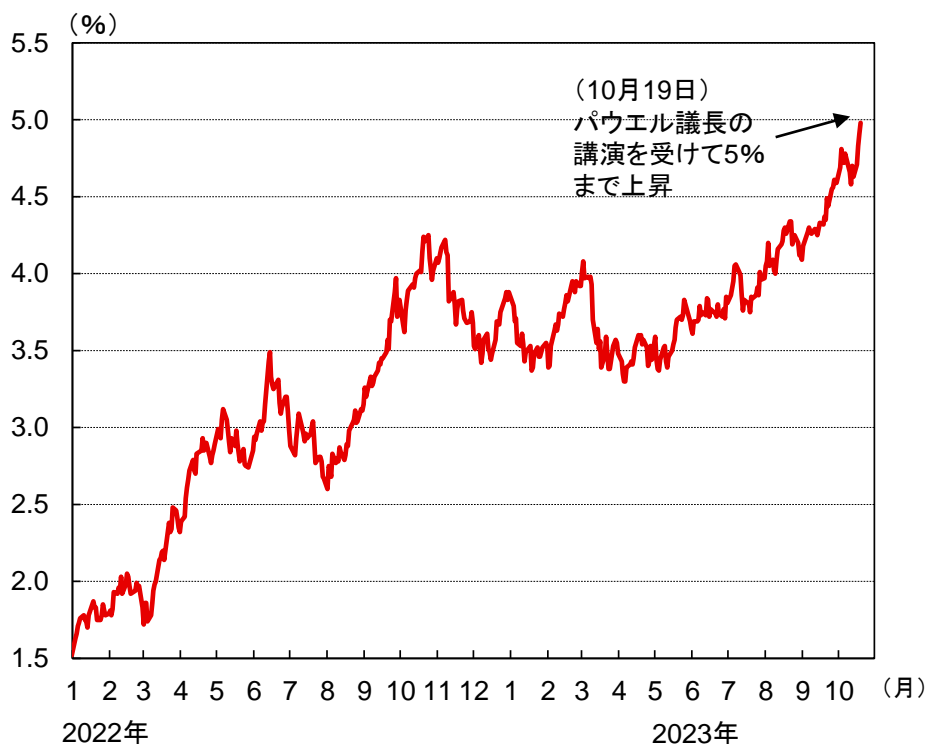


(注)通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、9月FOMCにおいて政策金利が長期間高止まりするとの見通しが示されたことや、政府閉鎖を巡る混乱及び財政への懸念の高まり等を受けて債券売りが続き、10月上旬に4.8%台まで上昇。ハマスのイスラエル攻撃による中東情勢緊迫化により10月11日には4.5%台まで低下したものの、景気の強さを示す経済指標が続き、10月19日にはパウエル議長が講演で追加利上げの可能性を排除しなかったこと等を受けて、2007年7月以来となる5%に達した。
- ダウ平均株価は、9月に米国債利回りが急上昇したことを受けて10月上旬に33,000ドル台まで下落。その後、企業決算への期待等から持ち直したものの、足元では再び下落。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名 : 株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先 : 角田 ともみ e-mail : tkakuta@us.mufg.jp